

NO. 341  
平成29年7月13日

# 宇工高だより

発行 山口県立宇部工業高等学校  
編集・発行 1学年  
URL <http://www.ube-t.ysn21.jp> E-メール [ube-t@ysn21.jp](mailto:ube-t@ysn21.jp)

期末テストが終わり、もうすぐ夏休みに入ります。1年生も学校に慣れ、学校行事、勉強、部活等、充実した毎日を過ごしていると思います。中学校までと異なって、実習時間数や職業の意識付けに関する授業内容が増えたのではないのでしょうか。

6月には産業人材実地セミナーがありました。これまでとはものの見方や考え方が変わった生徒も見受けられます。

産業人材実地セミナーは、6月14日（水）に実施されました。午前中は山口県産業技術センターで施設見学を行い、午後からは各科に分かれて様々な企業を見学しました。午後からの各科の見学先は、  
機械科1年 山口県農林総合技術センター  
電子機械科1年 株式会社 山口茶業  
電気科1年 株式会社 花の海  
化学工業科1年 ウベモクファーム でした。

生徒は、実際に働く人の姿や態度を見て、社会人としてのあり方の一部を垣間見たようです。また、それぞれの職場の見学を通して様々な感想を持ち、2年後の進路について考える機会にもなったようです。以下、生徒の感想文の抜粋をもって産業人材実地セミナーの報告といたします。

## 山口県産業技術センター

○産業技術センターでは、まずお話を聞きました。その中でとても印象に残っている言葉があります。それは、「産業技術センターは中小企業の研究開発部」というものです。これは、開発にあまりお金を使うことができない中小企業のために、代わりに研究を行うことからだそうです。僕はこれまで、自分達のは自分達の企業の中で行うものと考えていたので、できないことをやってくれるのは、とても助かるし、合理的だと思います。

僕が見た施設の中でいちばん興味をひかれて、おもしろかったのが無響室です。これは名前の通り、部屋の中では全く音が響かず、外からの音も全く聞こえないという部屋です。機械の出す騒音を調べるときなど、無音の状態でないとい調べられないものを調べるときに使うそうです。中で叫ばせてもらったのですが、全く音が響かないし、外の人にも聞こえなかったようで、とても不思議で変な感じでした。この部屋は、外側がコンクリートで、中に向かって七重構造になっていて、いちばん内側には防音素材を使っていました。質問してみたのですが、この七重構造の内の一つでもなくなると、効果はかなり減ってしまうそうです。今回は貴重な体験をさせていただいて、とてもありがたいことだなと感じました。さらに自分自身も楽しむことができたので良かったと思います。

## 機械科1年（山口県農林総合技術センター）

○林業は、ただ木を切るだけだと思っていましたが、命の危険を伴う大変な仕事だということが分かりました。チェーンソーで丸太を切る作業をさせてもらって、いろいろなところに誤作動を起こさないための、また、起こしてしまったときの工夫について知ることができました。例えば、刃を動かすときにはロックの解除が必要であるとか、アクセルに枝などが当たっても刃が回らないようにもう一つスイッチがあるというものです。さらに、衣類にも工夫があり、仮に体に刃が当たっても繊維に絡まって止まるというものもありました。林業はとても危険で、従事者の減少など、たくさんの問題を抱えていることがわかりました。

○農林総合技術センターでは、地域の特色を生かした持続可能な農林業の展開に向けて、を目標に企画・研究・技術指導を行っているそうです。現在、輸入された低価格の木材が多く使われ、国産材の使用量が減ったことによって林業従事者の方たちにはとても厳しい仕事になっているそうです。しかし、重機の開発によって、ここ数年従事者の若年者率が上昇傾向にあり、林業全体の発展が期待されているそうです。今回学んだことは忘れず、大切にしたいと思います。

## 電子機械科1年（山口茶業）

○初めは「え、なんでお茶？」と思いましたが、いざ行ってみると、緑豊かで湖を山が囲っている、とても素敵な場所でした。工場を見学させてもらって、茶の葉のにおいを嗅がせてもらいましたが、蒸す前はなんだか苦そうな匂いで、蒸した後は甘い香りがプラスされた感じでした。今回山口茶業に行ったことで、お茶について興味が出ました。

○小野茶畑の面積は西日本で最大なのに、山口県のお茶の生産量は最下位から数えたほうが早いそう。お茶を作る工場はすごく暑く、あんなに暑いところで毎日仕事をしているのはすごいなと思った。また、お茶は茎の長さによって4ランクに分けられ、短いもののほうがいいということが分かった。お茶の製造にはあまりスペースをとらないのだが、一つ一つがほとんど手作業なので、手間がかかり苦労も多いだろうと思った。お茶は毎日飲んでいるが、もっとありがたみをもって飲もうと思う。

## 電気科1年（花の海）

○今回、花の海に行くことになり、最初は工業にあまり関係してなさそうなのに何で行くのだろうと思いました。しかし、実際に見学してみると、農業にも水やりやLEDライトの利用など、様々な面で工業の技術が使われていることを知りました。農業と工業は全く違う分野だと思っていましたが、お互いにサポートし合っているということを知りました。違う分野から見ることによって工業を多面的にとらえることができたことがおもしろいと思いました。

○過去に一度、花の海にいちご狩りに来たことがあるが、今回の見学で、色々な技術と人の苦労があってこそ農業なんだと感じ、驚いた。農業は、人がやる「命を活かす技術」と、ものづくりの「技」である「工業を活かす技術」があり、「工業を活かす技術」が95%だと知ることができた。今まで農業は人がほとんどやるものだと思っていたが、技術によるものがほとんどだということが一番の驚きだった。

## 化学工業科1年（ウベモクファーム）

○ウベモクファームは、もともとウベモクという木材を扱っている会社だったが、新しいチャレンジをしてイノベーションを起こすという企業理念の下、現在は発芽後3週間ほどで収穫した野菜やハーブの若い葉で、栄養がたっぷりつまったベビーリーフという野菜の育成・販売も手がけている。ベビーリーフは商店街にある植物工場で栽培されています。ここは「完全人工光型」という先進のLED技術や水に肥料を溶かして育てる水耕栽培を行っていて、無農薬で洗わずに食べられる上、10日以上も日持ちするそうです。LEDライトの色を変えることで、味もコントロールできるそうです。これから野菜を食べるとき、じっくり味わって食べてみようと思います。

○ウベモクファームではベビーリーフという短期間で収穫できる野菜を作っていました。建物の中で育てていると聞いてどんな大きい所かと思っていたら、商店街の中の建物でびっくりしました。中には四段に積まれた野菜が、蛍光灯、白色LED、赤、青、緑の光を浴びて育てていました。まだ実験中な所もありますが、浴びせる光によって味が違うそうです。工場ですべて育てるメリット・デメリットについても聞くことができ、野菜を育てるだけでも色々な方法や技術があるんだなと思いました。

最初来たときは、化学と何の関係があるのかよく分からなかったけど、こんなところにも化学の技術が使われていてすごいなと思いました。身近な化学をもっと知りたいと思いました。

### ・夏休みの主な行事

7月14日(金) ～ 7月20日(木)	1・2年保護者個人面談
7月14日(金) ～ 7月24日(月)	追指導(成績不振者)
7月18日(火) ～ 7月28日(金)	野球応援
7月25日(火) ～ 7月26日(水)	追考査(成績不振者)
7月25日(火) ～ 7月28日(金)	3年保護者個人面談
8月21日(月)	登校日
8月22日(火)	体験入学
8月25日(金)	始業式(頭髪服装指導)